

抄録

総義歯の技工作業においては、外形の決定や人工歯の配列はある一定の法則が存在しますが、実際の臨床では顎堤の形や吸収状態、対向関係が異なりどのように設計すれば良いのか悩むケースが多く存在すると思われます。

個々の顎堤の状態によって義歯外形を変化させ、人工歯の排列位置も症例に合わせて変化させる必要があります。そこでは個々の症例を読み解く診断力が要求されます。今回は総義歯の診断及びケースに合わせた義歯外形線と人工歯排列の方法を、長期ケースを例にお話ししたいと思います。

部分義歯臨床においては患者さんの希望は良く嚙めて、異物感が少なく、支台歯が長期安定することであると思われます。その要求に応えるには支台歯を含めた設計と力のコントロールが最も重要です。一般的な局部義歯の設計は、欠損様式に合わせ義歯にかかる力の方向により維持装置を設計するのが大半の方法です。しかし局部義歯では残存歯の位置や対向関係により咀嚼中心の位置が大きく変わります。クラウン&ブリッジの様な白歯が咬合支持を担うものとは大きく力の働く部位が異なります。

そこで今回は局部義歯のケースについても、長期安定した臨床例を供覧しながら、力のコントロールに主眼を置いた設計のポイントをお話ししたいと思います。